

走った！ 探した！ あった！！

2009年1月18日 和歌山県民大会（和歌山県田辺市）

やってる人の心意気がわかる大会、たとえば、初心者が来て、「地図とかコンパスとかわけからんで、いっぱい迷ったけど、なんか楽しかった。」と思える大会。そんな大会を“やっていく”ことの大事さを運営者の立場からまとめてみます。

■本州最南トレインと温泉■

「案外近いなあ」というのが、実際南紀に足を運んだ人の感想です。

本州最南端の潮岬は、本州というところが中途半端ですが和歌山県のキャッチコピー。今回、トレインが本州最南トレインになるか確かめてみました。実は昨年開催の白浜町平原公園のほうが南になるのですが、そちらのほうで、北緯 33 度 40 分、今回の新庄総合公園では 33 度 41 分でした。山口県の本州部分で一番南になる上関町で北緯 33 度 49 分でしたから、南紀のこの二つのトレインは確かに本州最南トレインでした。

ということで、遠そうだけど行ってみようか、実際 2 時間少しだったから結構近かったし、また出てみようかといわれる大会になるよう心がけているところです。

古くから知られた白浜温泉やアドベンチャーワールドのパンダ、今回は 1 月開催のため時期がずれてしまいましたが、南部梅林など観光面も含めてしっかり告知する、心意気その 1 です。

■やっぱり元気な子どもたち■



南紀での大会開催は、県の体育協会加盟の際に、「紀南地方での普及」を宿題にもらったのが、そもそものきっかけです。

回を重ねるに連れて、地元紀伊田辺

のアウトドアショップのスポーツショップ ohana さんの協力を得て、小学生や子ども連れの家族を中心に、多くのグループ参加者を集められるになりました。このことが評価されて、今回はSSF スポーツエイドの補助を受けることができました。

フラッグを見つけるたびに「あった！」の歓声をあげて駆け出す子どもたち。お母さんたちを置き去りにしてきた子どもたちがフィニッシュで「お母さん、はやくー。」と大声で呼ぶのもおなじみの風景です。

その中で改めて気付いたのが、大会の雰囲気作りの大事さです。

大会に参加しはじめたころに、会場に近づいても何の案内もなかったり、それらしい人が見当たらず不安な気持ちになったことはないでしょうか。また逆に、昔の”ビッグ大会”は、最寄の駅には「歓迎」の看板が出ていたりしてうれしく感じたものです。

webに出してるのだから、現地の案内は省略、当日の受付の看板もほとんどないのが普通。これでは、慣れない人は受付にたどり着くまででさえ一苦労ということになりがちです。

最低限の表示に加えて横断幕やのぼり旗は、「なんかやってるな！」というアピールになるし、なんだか楽しそう！という気持ちにさせる効果的なグッズです。（もし、のぼり旗に効果がなければ、街角にあればほど建てられることはないはず。）



この面から、初心者説明も、わかりやすさを重視しています。受付近くの三つ程度のコントロールを利用して500m ぐらいまでのミニコースを実際にまわりながら地図の説明とパンチのやり方の説明を中心に行っています。地図は、OCAD の部分地図機能を利用して練習用の A5 版程度のものを用意しています。以上、心意気その 2。

■もちろん競技面も■

最後に、オリエンティアにも心意気を見せないと、というところ。

今回、1:4000 の JSSOM に地図をリニューアルしました。電子パンチ効果で、公園部分を細かくつないだレグや、コロッセオみたいな野外劇場の立体交差を含む JSSOM ならではのスリリングなルートなど提供できて、好評を得ました。

いちど（また）温泉ついでに和歌山県民大会へどうぞ。

(楠見耕介)

